

新学年別知能検査（サポート学習支援システム）の分析と活用

- ① 子どもの知的個性を客観的に正しく把握できる。
- ② 学習指導の効果を確認するために「知能学力の相関」等ができる。
- ③ どんな学級集団か把握し、指導に生かせる。

知能偏差値 (ISS)

個人の知能を、集団の平均値からのずれを用いて相対的に示す
(平均：50)

学習ペースが「速い」「ふつう」「ゆっくり」と解釈する。

ISSが高い：大きなステップで学習する（まとまった教材の与え方）ことも可能

※ 効果的な**発展学習**への移行（友達に教える体験も有効）

ISSが低い：小さなステップ（スモールステップ）での学習が良い。

※ **基礎的学習**を十分に行わせることが必要

（適宜補充指導→発展学習）
（具体的・体験的な学習、個別指導が向いている可能性あり）

知能指数 (IQ, DIQ)

ISSを「平均=100」に換算した時の知能偏差値。「同年齢の集団の中でどの位置にあるか」を表す。

※ 個別式知能検査のIQやFIQと同じではない。

A 式知能(偏差値) (抽象言語型)

言語的な素材を用いた学習活動が得意な学習スタイルを持つ。

B 式知能(偏差値) (感覚運動型)

図形や絵画、記号といった**非言語的**な素材を用いた学習活動が得意。

AとBの差：**7ポイント以上**

統計学上完全に**差がある**といえる

→ **Aタイプ** or **Bタイプ**

何もない：バランスがとれている。

素材から見た知能の特徴

図形的素材

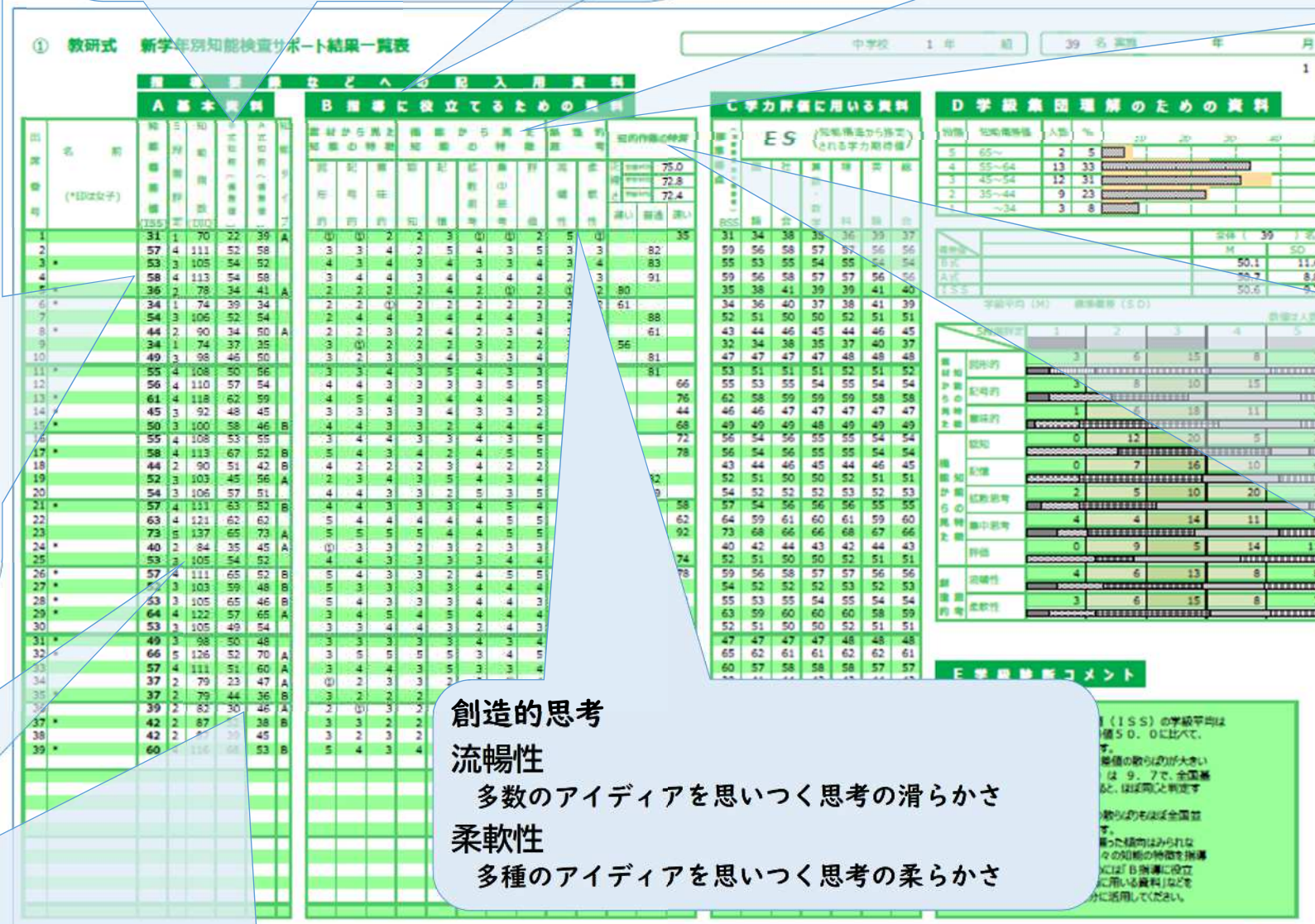
事物のもつ図形的特質（事物の大きさ・形・色・動き）を理解する。

記号的素材〔意味—記号化〕

言語の表層にある記号的側面を作り出したり、理解したりする。

意味的素材〔記号—意味化〕

学習素材の深層にある意味を理解する。



機能から見た知能の特徴

認知 (わかる・気づく)

↓：新しい知識を獲得する（事柄と事柄の関係）が分かる。

記憶 (おぼえる)

↓：獲得した知識を保存する。

拡散思考 (思いつく)

↓：問題を解決するための新しい発想に気づく。

集中思考 (筋道だてて考える)

↓：その発想に基づいて論理的に問題を解決する。

評価 (確かめる・決める)

↓：問題解決の過程等がある基準を満たしているかどうか判断する。

知的作業の特質

知的作業（頭を働かせる作業）を行う時の特徴 → **速さと正確さ**

① 速くて正確

知的作業を速く正確にこなしていく特徴を持つ

② 遅くて正確

作業を速くするようにさせる必要がある。ただし、本人の改善意欲を引き出しながらの指導が大切。

③ 速くて不正確

スピードを多少セーブしても正確度を増すように指導していく必要がある。ただし、性格や情緒面での改善が必要とされる場合もあるので配慮を。

④ 遅くて不正確

問題を解く力が不足している場合が考えられること、検査に対する非協力的、あるいは教示内容を理解できないままに受検した等の要素もあり得るので、日ごろの観察結果も補充しながら指導を。また、基礎的・基本的事項をマスターさせること。

Aタイプ：言語的な説明を適宜加える、読書教材を用いる、などの指導に効果的

※ 視聴覚教材や図版を活用した学習場面では、じっくり取り組ませながら、教師が適宜言葉で説明する等の支援が必要。

Bタイプ：視聴覚教材を多用する、図版を効果的に活用する、機器等の操作や動きを伴った学習活動、などの指導が効果的

※ 言語的教材を用いた教材場面で、イメージ化させる等の適切な配慮が必要。

創造的思考

流暢性

多数のアイデアを思いつく思考の滑らかさ

柔軟性

多種のアイデアを思いつく思考の柔らかさ

ES：学力期待値。知能から推測される学力。(これくらいはできるはず。できてほしい学力)

BSS：学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。「学習ペース」

① 教研式 新学年別知能検査サポート結果一覧表

A 基本資料		B 履修に役立つための資料		C 学力期待値に用いる資料		D 学級集団理解のための資料	
氏名	学力期待値	学習ペース	学習適性	学習ペース	学習適性	学習ペース	学習適性
1	31	1	70	22	39	A	
2	57	4	111	52	58	A	
3	53	3	105	54	52	A	
4	58	4	113	54	58	A	
5	36	2	79	34	41	A	
6	34	1	74	39	34	A	
7	54	3	106	52	54	A	
8	44	2	90	34	50	A	
9	34	1	74	37	35	A	
10	49	2	98	46	50	A	
11	55	4	108	50	56	A	
12	56	4	110	57	54	A	
13	61	4	118	62	59	A	
14	45	3	92	48	45	A	
15	50	3	100	58	46	B	
16	55	4	108	53	55	B	
17	58	4	113	67	52	B	
18	44	2	90	51	42	B	
19	53	3	103	54	52	B	
20	54	3	106	57	51	B	
21	57	4	111	63	52	B	
22	63	4	121	62	62	B	
23	73	5	137	65	73	A	
24	40	2	84	35	45	A	
25	53	3	105	54	52	B	
26	57	4	111	65	52	B	
27	57	4	113	59	48	B	
28	53	3	105	65	46	B	
29	64	4	122	57	65	A	
30	53	3	105	49	54	B	
31	49	3	98	50	48	B	
32	66	5	126	52	70	A	
33	57	4	111	51	60	A	
34	37	2	79	23	47	A	
35	37	2	79	44	36	B	
36	39	2	82	30	46	A	
37	42	2	87	32	38	B	
38	42	2	87	39	45	A	
39	60	4	116	68	53	B	

「標準偏差」バラツキ SD
 12.0以上 (格差が大きい) : 全国よりバラツキが大きい
 7.7以下 (格差が小さい) : 全国よりバラツキが小さい

「学習ペース」「学習適正」に打ち出される H.M.L や A.B.a.b. 等の記号は、右の「学習ペースと学習特性」の表の記号と対応しているため、各記号の意味は理解して指導に生かす。

知的作業 (「IV課題解決スタイル」) から考える基本的な支援
 L5型(慎重・悠長・緩行・準性急・性急)への支援 (視点)

- なぜ遅いのか
 - 眼球運動、短期記憶に課題? 集中できず遅くなる?
 - 手先が不器用で早くできない、遅くなる?
 - 不安が強い、間違えてないかと確認し過ぎて遅くなる?
 - こだわりがあって遅い? マイルールがあって早くできない?
 - 読み書きに課題があれば、代替機器も検討する?
- なぜ不正確なのか
 - 理解や記憶に課題。(聞くのが苦手。難しい。覚えるのが苦手。)
 - 集中力に課題。(落ち着きかない。面倒くさい。早く済ませたいケアレスミス多い)
 - 短期記憶に課題。(眼球運動、聴覚的短期記憶が苦手)
 - 代替機器の活用で学習に集中できる? (読み書きに時間を取られない)

③ 教研 新学年別知能検査サポート知能検査結果に基づく学習スタイル活用シート

学年	氏名	学習スタイル	学習ペースと学習適性		計
			Aタイプ 結果数割合	バランスタイプ	
1	1	L-A	15%	85%	15%
1	2	H	20%	80%	20%
1	3	H	20%	80%	20%
1	4	H	20%	80%	20%
1	5	L-A	15%	85%	15%
1	6	L-A	15%	85%	15%
1	7	L-A	15%	85%	15%
1	8	L-A	15%	85%	15%
1	9	L-A	15%	85%	15%
1	10	L-A	15%	85%	15%
1	11	L-A	15%	85%	15%
1	12	L-A	15%	85%	15%
1	13	L-A	15%	85%	15%
1	14	L-A	15%	85%	15%
1	15	L-A	15%	85%	15%
1	16	L-A	15%	85%	15%
1	17	L-A	15%	85%	15%
1	18	L-A	15%	85%	15%
1	19	L-A	15%	85%	15%
1	20	L-A	15%	85%	15%
1	21	L-A	15%	85%	15%
1	22	L-A	15%	85%	15%
1	23	L-A	15%	85%	15%
1	24	L-A	15%	85%	15%
1	25	L-A	15%	85%	15%
1	26	L-A	15%	85%	15%
1	27	L-A	15%	85%	15%
1	28	L-A	15%	85%	15%
1	29	L-A	15%	85%	15%
1	30	L-A	15%	85%	15%
1	31	L-A	15%	85%	15%
1	32	L-A	15%	85%	15%
1	33	L-A	15%	85%	15%
1	34	L-A	15%	85%	15%
1	35	L-A	15%	85%	15%
1	36	L-A	15%	85%	15%
1	37	L-A	15%	85%	15%
1	38	L-A	15%	85%	15%
1	39	L-A	15%	85%	15%

【学習ペース】
 M: ミドル
 L: ロー (普通)
 H: ハイ

【学習適性】
 A: Aタイプ
 B: Bタイプ
 □: バランスタイプ

【学習ペースと学習適性】
 バランスタイプの
 「←」はAに近く、「→」はBに近い

慎重型	着実型	効率型
遅い×正確 「正確にできているから、安心してスピードを上げてみよう。」	普通×正確 「スピードを意識してやってみよう。」	速い×正確 課題が速く終わった時に退屈しないよう次の課題を用意。
悠長型 遅い×普通 「スピードを意識してやってみて」	普通型 普通×普通	迅速型 速い×普通 「スピードよりも正確さを気にして」
緩行型 遅い×不正確 「ゆっくりでいいから、まずは正確にやることを目標に」	準性急型 普通×不正確 「あわてずゆっくりやると、ミスも減るよ」	性急型 速い×不正確 「あわてんぼうだなあ。ゆっくり確認しながらやろう」